

「第 61 回 九州地区高等学校 PTA 連合大会 がまだすばい熊本大会」に参加して

大島高等学校 PTA 副会長  
村田 由紀

6 月 16 日、熊本で行われた上記大会に参加させていただきました。

各校からの実践報告がある分科会では「進路指導と PTA 活動」をテーマにした分科会に参加してきました。

進路というと進学しか頭になかったのですが、難関国公立大学の合格をめざす超・進学校から就職率 2 年連続 100% を達成した特別支援学校などタイプの異なる 4 つの高校からの事例発表を聞いて、高校卒業後にある様々な進路とそれを支える保護者としての役割を改めて考えさせられました。

A 校では、全体の活動として文化祭で PTA チャリティーフリーマーケットを行い、収益金を生徒会活動や PTA 活動に活用。毎年 1 名ずつ受け入れる留学生への日本語・日本文化指導支援。別府名物「とり天」をのせた「点とりカレー」で 3 年生を激励する会。

また、各委員会活動でも、研修委員会では近隣の大学を訪問。卒業生による施設、大学生活の説明を受け子供の将来像を具体的に描く大きな手助けとなったとのこと。

また、卒業生や卒業生の保護者を講師に招いた教育懇談会で日頃の疑問や不安を率直に聞ける場を設けているそうです。

保健厚生委員会では保護者を対象として料理教室を開催して、高校生の栄養摂取量を基に、バランスのとれたメニューを実習・試食などの報告がありました。

食事を通して高校生の成長をサポートする事も親としては大事な役割であるとのこと。

B 校では、キャリア教育支援として、起業家による講義の実施と、協力企業からの課題に取り組むなどして、地域や産学官主催のビジネスコンテストで優勝、さらに高校生の企画が「地域商店街活性化事業計画書」に採用されるなど、自分達の力で社会を変えられることができるという手ごたえを実感するようになったそうです。

どのような状況に置かれても「生きる力」「生き抜く力」を醸成するにはどうしたらいいのか、保護者を教師が共に学びあう機会を絶やさないことが大切で、PTA 活動はそのよい機会であるとの事でした。

この学校でも 3 年生に「勝つかレー」の配布を行っていました。

C 校は進学校です。ここでは年 4~5 回保護者のための「土曜サポート講座」を行い、その年度の入試状況の解説や効率的な勉強方法だけでなく、大学の教授や理事による今後の入試改革、大学や企業がどんな人材を求めているかなど、幅広いテーマで講義をしてもらい、変わりゆく社会情勢の中で保護者も勉強をしていくそうです。

さらに、年に 1 回「研修旅行」があり大学や公官庁の見学にも行くとのこと。

毎年5月の開校記念日には、OBによる講演会を開催。共同通信論説委員、NHK支局長、三菱重工業社長、ロボットベンチャー起業家などの方々が講演されていて、生徒が自らのロールモデルを得る良い機会になっているとのこと。

また、年間予定表や校則などの記載された「父母教師会手帳」というものがあり、全P戸に配布しているそうです。

D校は特別支援校です。

「親亡き後のことの想い、就職することにより社会的自立を目指させたい」として、自立するために必要な力を身につけさせること、そのための環境を整えるのが親の役目として、毎月、育成会を行っている。全大会では学校から生徒の活動の様子や問題事案の紹介、現場実習や進路面接等の行事や研修会の紹介などがあり、その後にある学年会、クラス会ではさらに細かい報告が学校からあり、個別の教育支援計画の目標や取組状況などについて学校と家庭で共通理解を図っている。このような取り組みのおかげで知的障害特別支援学校の生徒の就職率の全国平均は30%前後であるのに対し、D校では平成27・28年度と2年連続100%を達成したそうです。

全体の話の中では、親世代が歩んできた時代とは価値観や環境が大きく異なり、今、社会は変革期を迎え、SNSなどインターネット環境の劇的な普及、AIの急速な進歩など、激変する産業構造や雇用情勢を生き抜く力が必要で、その力を身に付けるための教育を今からしておくことが必要である。

その為には、生徒自身がキャリア教育やインターンシップなどを通じて仕事観や職業観、人生観を広げるなどキャリア意識を高め、自分の進路を主体的に考え、自ら決定できる力を身に付けることが必須。学校と家庭が連携してその手助けをしていくことが重要であるとのことでした。

また、各校で情報モラル教育は行っていると思うが、これからの時代はSNSやAI、コンピューターをいかに使いこなしていくかということや学校のカリキュラムの中で小中学生のうちから教育していく、そういう時代になっているのでは、との話も出ました。

これら4校の話聞きながら、大島高校での自分達のPTA活動を思い起こし、もっと自分達にも出来るのでは・・・と、感じました。

本校の場合、クラス評議員になったとしても評議員会は総会前の1度だけ。

その後、体育祭の100円タクシーの運営、図書館ボランティア、30km遠行の給水当番などはありますが、全評議員が集まり話し合う機会が少なく感じていました。

小・中学校では年5～6回理事会や評議員会があり、各学年・委員会の活動報告や進路指導・生活指導の先生からの報告などがあり、課題を学校とPTAの共通認識事項として捉え、解決に向けて協力してきました。

各学期に1回は評議員会を開き、保護者同士の横の繋がり、学校の先生方との連携をもっと密にして子供達の為に活動が出来たらと思います。